

第7回「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」講習会

名古屋大学地球水循環研究センター	上田 博
東京大学大気海洋研究所	中島映至
千葉大学環境リモートセンシング研究センター	久世宏明
東北大学大気海洋変動観測研究センター	青木周司

平成19年度より、表記4大学センターの共同プロジェクトとして、文部科学省・特別教育研究経費「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」が開始されました。本プロジェクトでは、地球気候系の診断を行うために、気候・環境研究に関わる表記4大学センターが協力してバーチャルラボラトリー（VL）を形成し、各センターの研究資産を活かした研究・教育を行います。VLの一環として、大学院生や若手研究者を対象に連携研究を促進するための講習会をシリーズで実施しています。今年度は、名古屋大学が主幹となり下記の要領で講習会を開催します。

「メソ気象現象の解析」

豪雨、突風などの激しい気象現象は特定の大気環境場で発生するメソスケールの現象によりもたらされます。本講習会では、これまでに発生した激しい気象現象をもたらした事例を対象として、名古屋大学でデータを取得・蓄積しているデータ、具体的には名古屋大学や国土交通省のXバンド偏波レーダのデータ、雲解像モデルCReSSを用いた毎日のシミュレーション実験の結果などを駆使して、数人ごとのグループ単位でメソ気象解析を実践していただきます。その上で、各グループの解析結果について発表していただく予定です。

日時： 平成25年9月24日（火）13:00～9月25日（水）16:30

内容：

1. 計算機を用いたデータ処理と描画
2. 解析結果にもとづくグループディスカッション
3. 解析結果のプレゼンテーション
4. メソ気象現象の解析手法と実践についての講義
(講師：名古屋大学 上田博教授、坪木和久教授)

効果的にグループディスカッションをしていただくために、対象とする事例を予め設定させていただきます。例として、以下の事例を想定しております。

- [1] 2011年9月の台風12号による紀伊半島の豪雨
- [2] 2011年7月の梅雨前線による新潟豪雨
- [3] 2012年4月の爆弾低気圧の通過と発達

[4] 2010年12月のJPCZによる山陰地方の大雪

[5] 2012年5月の茨城県での竜巻

場所： 名古屋大学地球水循環研究センター（名古屋大学東山キャンパス内）

定員： 30名（旅費の援助あり、定員になり次第締切）

参加資格：

1. 積極的にグループディスカッションに参加していただくために、簡単な気象データ解析を実施可能な程度の計算機プログラミング経験があること。
2. データ解析、発表用に自分のノートパソコンを持参できること。ノートパソコンにはUNIXベースのプログラミング言語、スクリプト言語、描画ソフトが実装されていることが望ましい。WindowsやMac OSのパソコンについては、LINUXエミュレータやXサーバ・ソフト等の利用で対応可能である。

問い合わせ先：

VL推進室（田中知子・大東忠保）

vllecture2013@hyarc.nagoya-u.ac.jp

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学 地球水循環研究センター

Tel: 052-789-3497 Fax: 052-788-6206

参加申し込み：E-mailにて上記まで申し込んでください。

申し込み期限：7月19日（金）

参加希望者は、氏名、所属、身分、連絡先（電話番号およびメールアドレス：携帯メールアドレスは不可です）、現在取り組んでいる研究内容または興味のある研究分野、旅費希望の有無を明記の上、電子メールでお申し込み下さい。